

## 第1回 環境活動支援センター業務外部評価委員会 議事要旨

- 【日時】 2007年11月8日(木) 13:30~15:30
- 【会場】 こうち男女共同参画センター・ソーレ
- 【出席委員】 風間千晶、坂本世津夫、田島真紀、長瀬順一、山本博政
- 【出席者】 高知県循環型社会推進課：西尾健一(課長)、竹崎智子(チーフ)、橋田麗帆(主査)  
特定非営利活動法人環境の杜こうち：石川妙子(理事長)、  
兼松方彦(事務局長兼環境活動支援センター長)、上田史(事務局)

高知県文化環境部 長瀬部長の挨拶ののち、同部循環型社会推進課西尾課長より、外部評価委員会の開催経緯について説明し、質疑応答、意見交換を行った。

### 1. 委員長選出

坂本世津夫委員を選出。

### 2. 議長選出

坂本世津夫委員を選出。

### 3. 議題

#### (1) 環境活動支援センター設置の経緯

高知県循環型社会推進課西尾課長より、環境活動支援センター設置の経緯について、資料に基づき説明した。

#### (2) 前年度実施事業について

事務局より、前年度実施事業について説明し、質疑応答、意見交換を行った。概要は以下のとおり。

分野	意見及び質問	事務局返答
全体	委託金が当初の3100万円から400万円減額になっている。事業内容が多く、こなしきれなかったのだろう。	環境活動支援センターと平行して高知県地球温暖化防止活動推進センターの運営もしており、前年度当初から、委託内容をすべて実施できるのか、という議論はあった。途中段階でチェックし、結果的には契約変更をして、事業費を減らした。
	これらの事業全てを3人で切り盛りしたのか。県からの委託事業をさらに外部委託することもできるのか。	外部委託も可能だが、会員等に手伝ってもらう形を取っている。会員等に対しては人件費を払える場合もあるが、基本的にボランティアが多い。
活動支援	環境活動支援助成事業の助成金額は？その資金は委託金の中に含まれるのか。	前年度の助成総額は80万円で、委託金に含まれている。

#### (3) 前年度及び今年度の事業計画について

事務局より、前年度及び今年度の事業計画について説明した。

(4) 今年度の事業進捗状況について

事務局より、今年度の事業進捗状況について説明し、質疑応答、意見交換を行った。概要は以下のとおり。

分野	意見及び質問	事務局返答
アウトソーシング事業について	今年度は達成困難な事業はないか。達成値が未だゼロの事業があるが。	例えば団体情報収集に関して団体情報というものをどう捕らえるか等、目標値のカウントの仕方や、解釈の仕方が不明瞭な項目がある。県と相談したい。
	事業計画についてはアウトソーシングの中で合意しているが、目標値が的確でないということもあるかと思う。19年度事業について現時点で中間評価をし、事業計画を見直す等した方がよいのではないか。	ぜひお願いしたい。
	事業項目が多いが、どれだけ掘り下げて実施できているのか。もう少し絞って、深く取り組むということを考えてはどうか。	環境の杜こうちのミッションと、二つのセンター（環境活動支援センターと地球温暖化防止活動推進センター）に期待されているものを、よく考えたい。前年度は、与えられた事業をこなしている状態だった。今後事業を掘り下げていくことを、理事、部会でも話し合い、県とも手を取り合っていきたい。
	19年度環境省委託事業「一村一品知恵の環づくり事業」について。高知県代表が全国大会で良いところまで進んだ場合、県としても支援をしたい。成果をまとめて欲しい。	「一村一品知恵の環づくり」は、ものづくりではなく、活動のコンテスト。環境省から出るのは事業費だけで、団体の活動費は使ってはいけないことになっている。参加団体にはコンテストに出てもらうだけで、お返しするもの、支援するものが何もない。そこに県の費用を使うことができれば良いと思う。
環境学習の推進について	教育委員会に働きかけをしていくなどして、子どもたちにとって環境学習があたり前のことになるように進めて欲しい。地球温暖化防止活動推進員がスキルアップして県内で活動するなど、子どもたちに対する啓発が県内で普通に行われるようになって欲しい。	（推進員だけでなく）省エネマイスターさんたちも含め、みんなが活動していくことだと思う。
地球温暖化防止活動推進員支援事業について	昨年度に登録した高知県地球温暖化防止活動推進員によると、今年度も昨年と似た内容の研修をやっており、相変わらず活動の場がない、という不安を持っているようだ。推進員が活動しやすいように世話をしたい。	講座の中身はこれから見直していく。スキルアップのための講座等については推進員で協力して作り上げて欲しい。推進員は個人の活動であり、そのための活動資金は与えられないが、高知県地球温暖化防止活動推進センター主催の地球温暖化防止セミナーの講師として謝金を支払う等で間接的な支援をしている。また、支援センターの事業として教材開発費を用意している。推進員さんの連絡会も組織しているので活用して欲しい。

地球温暖化対策について	地球温暖化対策に実際に取り組んでいる NPO や団体がばらばらに活動するのではなく、みんなで一緒に取り組む仕掛けを作って欲しい。削減結果が還元されるしくみも必要ではないか。	還元するしくみは「コツコツ削減コンテスト」家庭版で実施中。津野町では町内全域で学校版に参加、家庭版も 70 世帯が申し込み、町全体でこの 4 ヶ月の電気削減率をある程度出せるような状態。これが県内に広がるのが理想。
事業の評価について	日頃から内部評価、自己評価をする仕組みづくりを。事業が目指す効果、位置づけを考える。内部資料として、自己評価を資料にまとめ、いつでも説明できるよう、データとして蓄積して欲しい。	最初の目標設定がうまくできていなかったために、あるべき姿、方向性がよくわからないままにやっているようなところがあった。これからは最終的な評価だけでなく、要所要所でチェックをしていきたい。
	現在は定性・定量的に評価できているわけではない。後で分析ができるよう、今回はこういう反応があった、というようなことを記録しておくとい。チェックリストを作る等して、少しずつそういうやり方をしていけばよいのでは。	
今後の展開について	事業をシェイプアップする時期ではないか。参加団体や会員に役割を与え、後ろへ戻れないようにうまく仕事を願ひしていけば、事務局 4 人で実施できると思う。	環境の杜こうちには能力のある人が集まっているので、それを活かせる方法を考えていきたい。
広報について	いろんな取り組みをもっと知らしめる手段、情報発信をどのようにするか、商品に名前を入れる、事業趣意書をつけて企業に願ひする等の工夫をする等、いろんな仕組みを考えて広報を。	次の課題として広報戦略がある。次回運営委員会の議題になっている。
	長期的な目標を立て、視覚化する。それを伝えることをやって欲しい。	会員に対する広報も含めて、これから取り組んでいきたい。
	いかに効率よく広報をしていくかも考えてほしい。	今年から複数の事業の組みあわせができるようになってきた。「コツコツカツコツ」という言葉をキャッチフレーズとして使っている。

(5) 委員会の開催回数について

10 月または 11 月に中間評価、年度末に次年度計画、決算後に前年度の評価、の合計 3 回実施することが了解された。

(6) 総評

非常にたくさんの事業をこなしている。事業に使われず、事業を使うように、今がターニングポイント。高知県だけでなく国や外部の動きをみながら、高知県の環境対策を担えるような体制作りを考えていただきたい。そのために評価委員は協力したい。これだけよくできた資料をつくるだけでも大変だったと思うが、これだけのものができていれば、来年からは楽になると思うので、力配分を変えて、次年度からは事業に取り組んでもらいたい。

4. 閉会

議長が閉会の挨拶をして、環境活動支援センター業務外部評価委員会が閉会した。